

警報装置のさらなる充実、異常時の運用を効率的に行うこと。

現場の苦勞を評価することを求め業務委員会を開催！

地本は、11月27日に「9月4日のゲリラ豪雨」及び「9月16日の台風18号」などにより、ダイヤの乱れ、倒木、土砂崩壊など多くの被害が発生したこと。また異常時の乗務員運用について「申4号」に基づき業務委員会を開催しました。

1. 9月4日のゲリラ豪雨及び台風18号による鉄道施設被害状況を明らかにすること。

回答 9月4日の豪雨の際にはエレベーター、改札機の故障、落雷による通信不能の故障があったものの鉄道施設に大きな影響はなかった。

2. 特に台風18号の中央線における倒木、飯田線における線路への土砂の流れ込みについての状況を明らかにすること。

回答 台風18号上陸に伴う被災状況は以下の通りである。

(中央線倒木)

9時32分贅川駅・木曾平沢駅間の倒木により、高圧配電線が断線したため、洗馬駅・宮ノ越駅間において停電が発生した。工務係員の復旧作業を待ち17時01分に運転再開した。

(飯田線土砂流入)

飯田線の主な被災箇所は門島駅・唐笠駅間、為栗駅・温田駅間における土砂流入及び時又駅・駄科駅間における土盤流失の三件である。これに伴い一部区間で運転を見合わせていたが、10月10日より飯田線全線で運転を再開した。

3. 泊行路で睡眠時間が2時間、1時間などしか取れなくて、翌日の昼過ぎの勤務終了まで勤務を続ける乗務員が多数発生した。原因を明らかにすることと今後は睡眠時間の取れない乗務員の交替手配を行うこと。

回答 異常時であり通常時よりも睡眠時間の確保が困難であったことは承知しているが、鉄道業という性質上、これを皆無にすることは難しく引き続き適宜適切に対応していく。

4. 列車ダイヤが大幅に乱れたときは乗務員の運用を自区、他区関係なく運用すること。

回答 適宜適切に対応していく。

5. 台風が接近している時は、計画的に早めに運休を行うこと。

回答 適宜適切に対応していく。

会社回答と主なやり取り

組合：土砂流入があった箇所では防災対策を行っていたのか。

会社：沿線の状態を見て、警報装置などは設置している。ソフト面においても対策は立てている。

組合：中央線では9月16日の台風、10月16日の台風とほぼ同じ箇所で倒木があった。9月16日の倒木の原因を突きとめ対策を行ったのか。

会社：倒木があった箇所は、JR東海の所有地でないため、簡単に伐採できない。

組合：今回倒木があった箇所は、2004年の台風23号で土砂崩壊がありワンマン列車が脱線した箇所だが、承知していたのか。また、危険は察知していたのか。

会社：そのような認識はなかった。

組合：倒木の危険回避のために木の伐採をしすぎで地盤が弱くなっているということはないのか。

会社：自社の土地であれば対策もやりやすいが、自治体などの土地や私有地であり簡単に話し合いがつかない。自治体などに対策を行ってもらっている箇所もある。

組合：飯田線では下り列車が通過した後に土砂流入があり、その後に落石警報の知らせがあった。今後も警報装置の設置を進めてもらいたい。

会社：進めていく。

組合：飯田線の不通箇所は復旧までに3ヶ月かかると言われていたが、1ヶ月で復旧した理由を説明すること。

会社：橋りょうの上に土砂流入があったため、橋りょうの復旧も考えていて最大の工期としていたが、丁寧に土砂を取り除いたことにより橋りょうが使用できたことにより短い期間で復旧できた。

組合：乗務員の睡眠時間はどうであったのか

会社：列車内で泊となった乗務員は代替えを行った。

組合：異常時とはいえ、1時間や2時間しか睡眠が取れないまま、翌日12時過ぎまで乗務することは安全上大きな問題である。

会社：そのようには考えている。適宜適切に対応していく。

組合：9月4日のゲリラ豪雨は夜遅くなってから発生であり、開通したのも遅かった。しかし、詰め所では必要以上に待機要員を確保していたのではないか。この様な場合には特段の配慮を行い、少しでも早く睡眠を取らせるべきである。一人でも長時間睡眠が取れば代替えもやりやすくなるのではないか。

会社：現場も考慮してやっていると思う。

組合：考慮があまりなされていないから問題になっているのだ。しっかり指導すべきである。

会社：考えてやっている。

組合：乗務員運用は現場が行っているのか。全体的に運用されていない。

会社：現場を中心としているが、鉄事からの指示も出している。

組合：無駄な便乗が多いことは、現場の乗務員が一番知っている。現場の意見を参考にすべきである。

会社：考慮して対応している。

組合：異常時当日に苦勞した社員には、勞をねぎらうべきだ。規程の遵守、お客様対応、長時間労働など、正しくできて当たり前ではなく、正しくできたことに対してしっかり評価すべきだ。これは乗務員に限らず、保線、電気、施設など全ての社員が一丸となり対応しているのだ。理解して対応すること。

以 上